

## 第 I 節 学校教育に対する意識

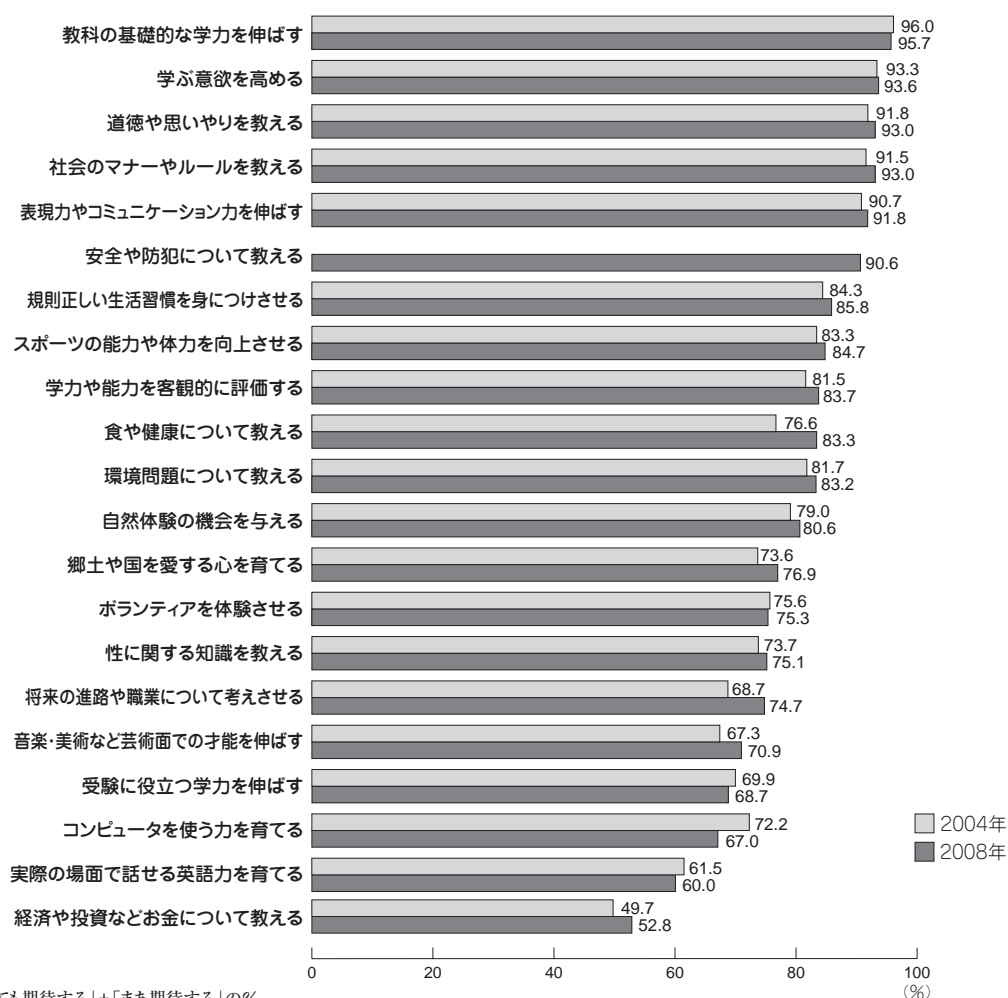
### 学校に期待する教育

「食育」や「キャリア教育」に対する期待が高まっている

学校にどのような教育や指導を期待するかをたずねたところ、「教科の基礎的な学力を伸ばす」「学ぶ意欲を高める」などの基礎学力や学習意欲の向上にかかわる項目や、「道徳や思いやりを教える」「社会のマナーやルールを教える」「表現力やコミュニケーション力を伸ばす」などの社会性の育成にかかわる項目が上位になった。

「期待する（とても+まあ）」の比率について2004年調査からの変化をみると、「食や健康について教える」が6.7ポイント、「将来の進路や職業について考えさせる」が6.0ポイント増加している。その一方で、「コンピュータを使う力を育てる」は5.2ポイント減少した。

図 I-1 学校に期待する教育（経年変化）



注1) 「とても期待する」+「まあ期待する」の%。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「安全や防犯について教える」は2004年調査ではたずねていない。

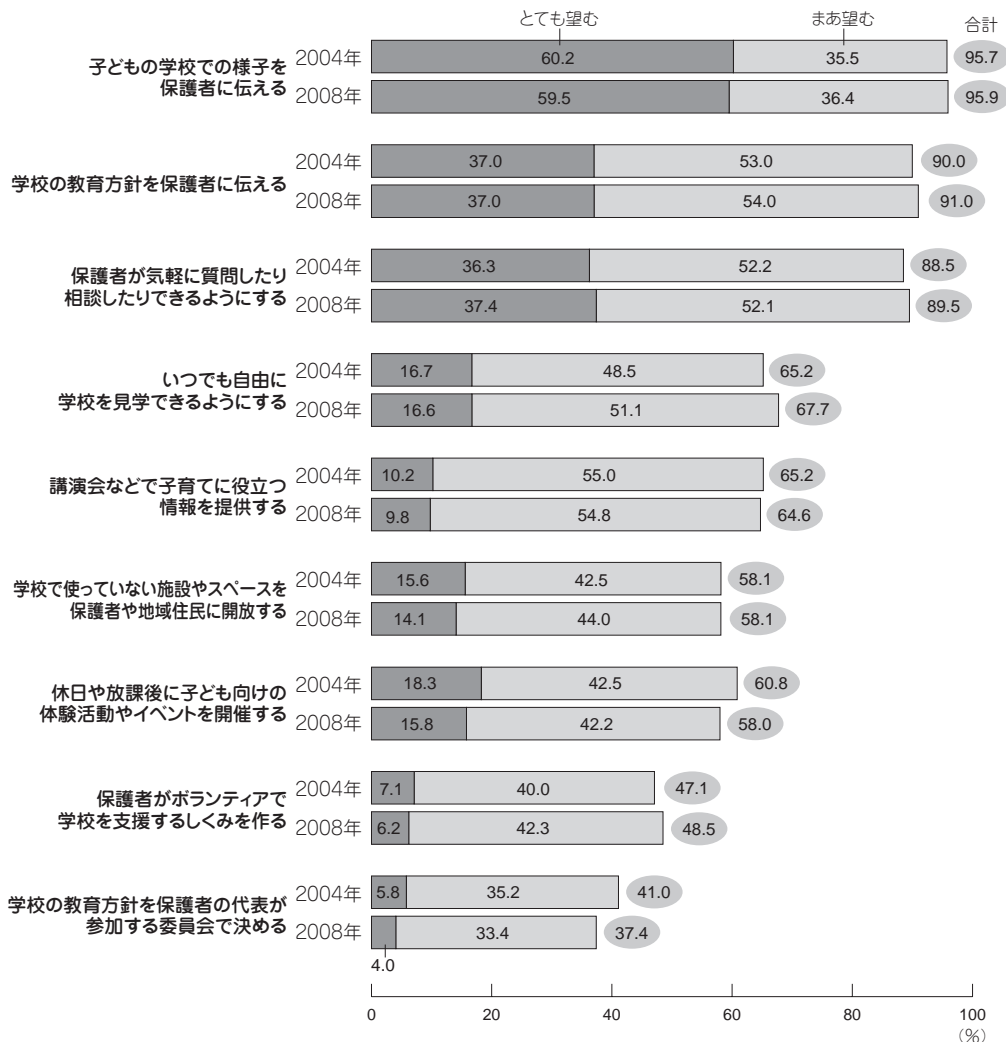
## 学校公開や学校参加に対する希望

子どもの様子や教育方針を積極的に伝えてほしいと考えている

「望む（とても+まあ）」が9割を超えたのは、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」「学校の教育方針を保護者に伝える」の2項目である。学校が積極的に情報を公開することを、強く望んでいる。さらに、「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」も約9割が「望む」と回答しており、学校とのコミュニケー

ションを期待しているようだ。しかし、「学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める」「保護者がボランティアで学校を支援するしくみを作る」といった学校運営に直接参加する項目は、「望む」が5割を下回った。こうした傾向は、2004年調査から大きく変化していない。

図I-2 学校公開・学校参加の希望（経年変化）



注) 数値は、継続校のみの値。

## 学校に対する満足度①——総合満足度

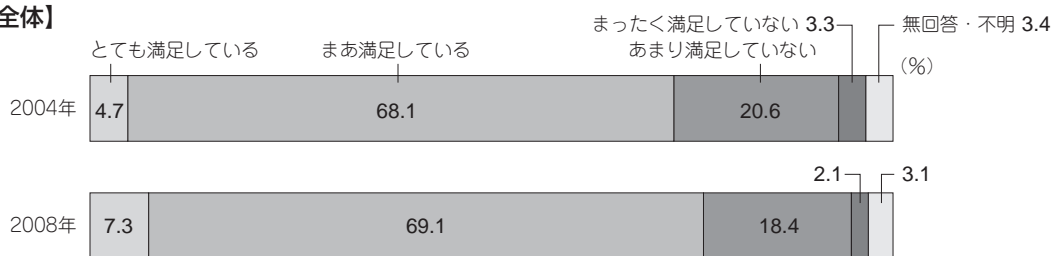
子どもが通う学校に「満足している」という回答が増えている

学校に対する保護者の満足度が高まっている。継続で調査を実施している小・中学校全体の数値を2004年調査と2008年調査と比較すると、「満足している（とても＋まあ）」の比率は、72.8%から76.4%と3.6ポイント増加している。これを学校段階別にみると、小学生の保護者は「満足している」の比率が79.5%から80.1%と0.6ポイ

ント増加して、8割を超えた。さらに、中学生の保護者は、2004年調査の61.6%から70.1%と8.5ポイント増加して、7割を超えた。中学生の保護者は小学生の保護者に比べて「満足している」と回答する割合がやや低いものの、両者の差は縮まっている。

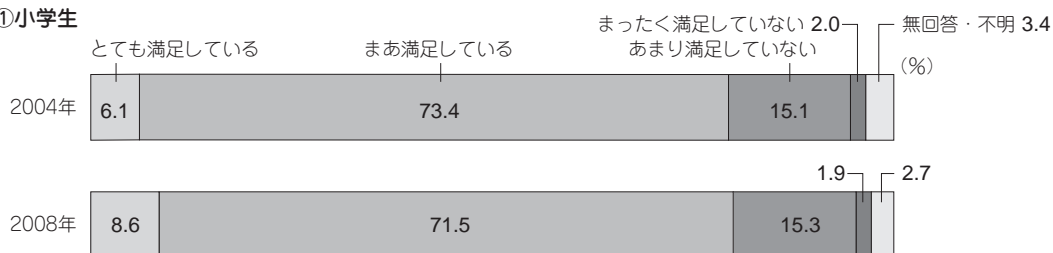
図I-3 学校の総合満足度(全体/学校段階別・経年変化)

### 【全体】

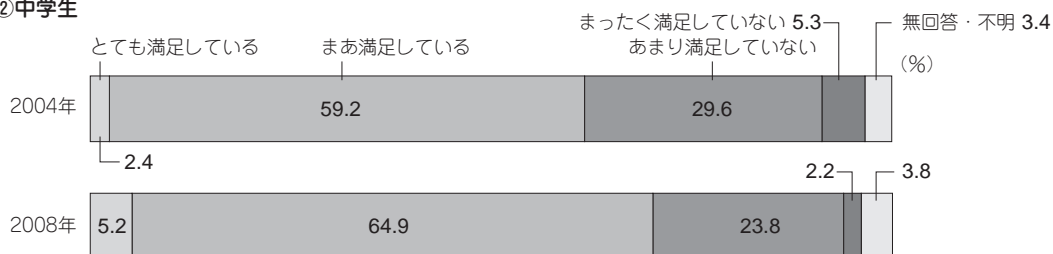


### 【学校段階別】

#### ①小学生



#### ②中学生



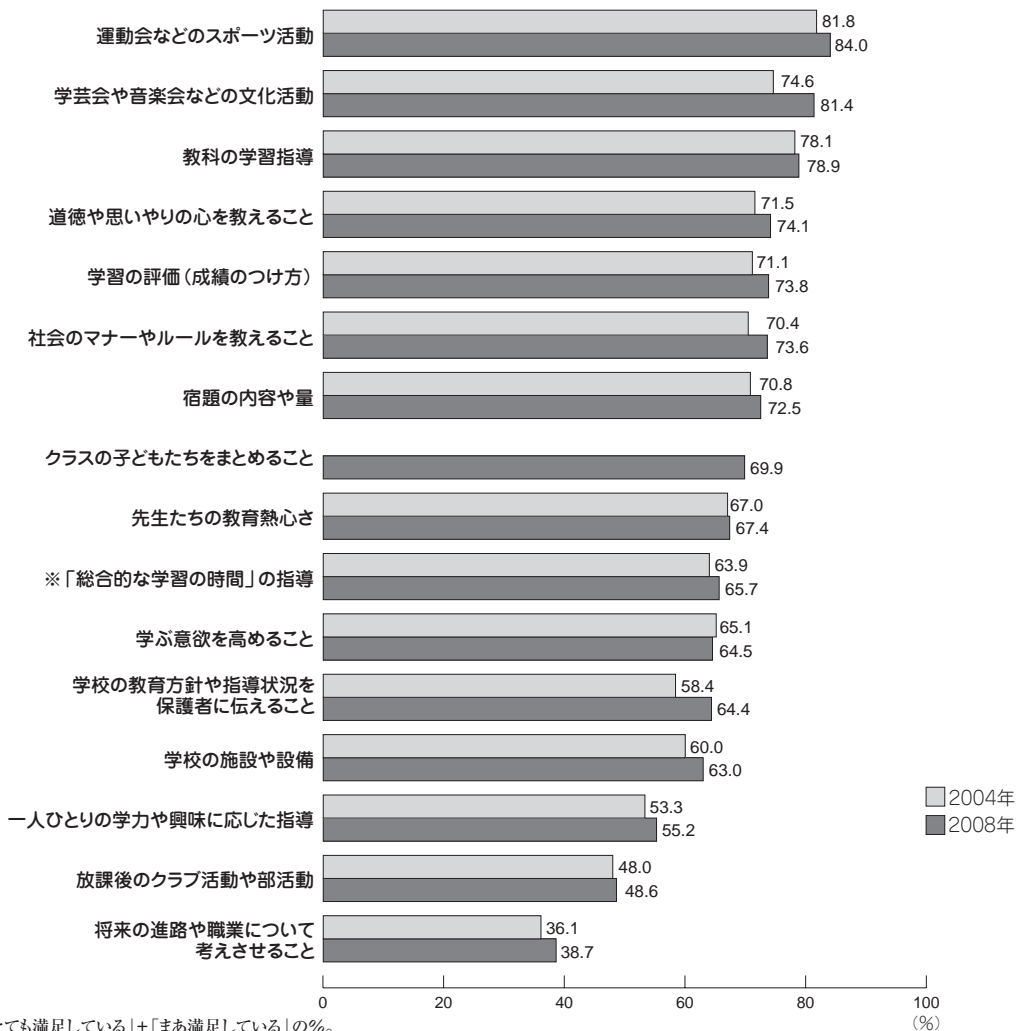
注) 数値は、継続校のみの値。

学校に対する満足度②——指導や取り組みに対する満足度（小学校）  
「文化活動」「教育方針や指導状況の伝達」に対する「満足」が増えている

16項目中14項目で、「満足している（とても＋まあ）」の割合が半数を超えている。さらに、ほとんどの項目で、「満足している」の割合が増加しており、それぞれの取り組みに対する満足度が高まっていることがわかる。そのなかでも、「学芸会や音楽会などの文化活動」が6.8ポイン

ト増加しており、もっとも増えている。このほか、「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」は6.0ポイント増加した。保護者の期待に応じて、学校が情報を積極的に発信することが多くなっている様子がうかがえる。

図I-4 指導や取り組みに対する満足度（小学生保護者・経年変化）



注1) 「とても満足している」＋「まあ満足している」の％。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「クラスの子どもたちをまとめること」は2004年調査ではたずねていない。

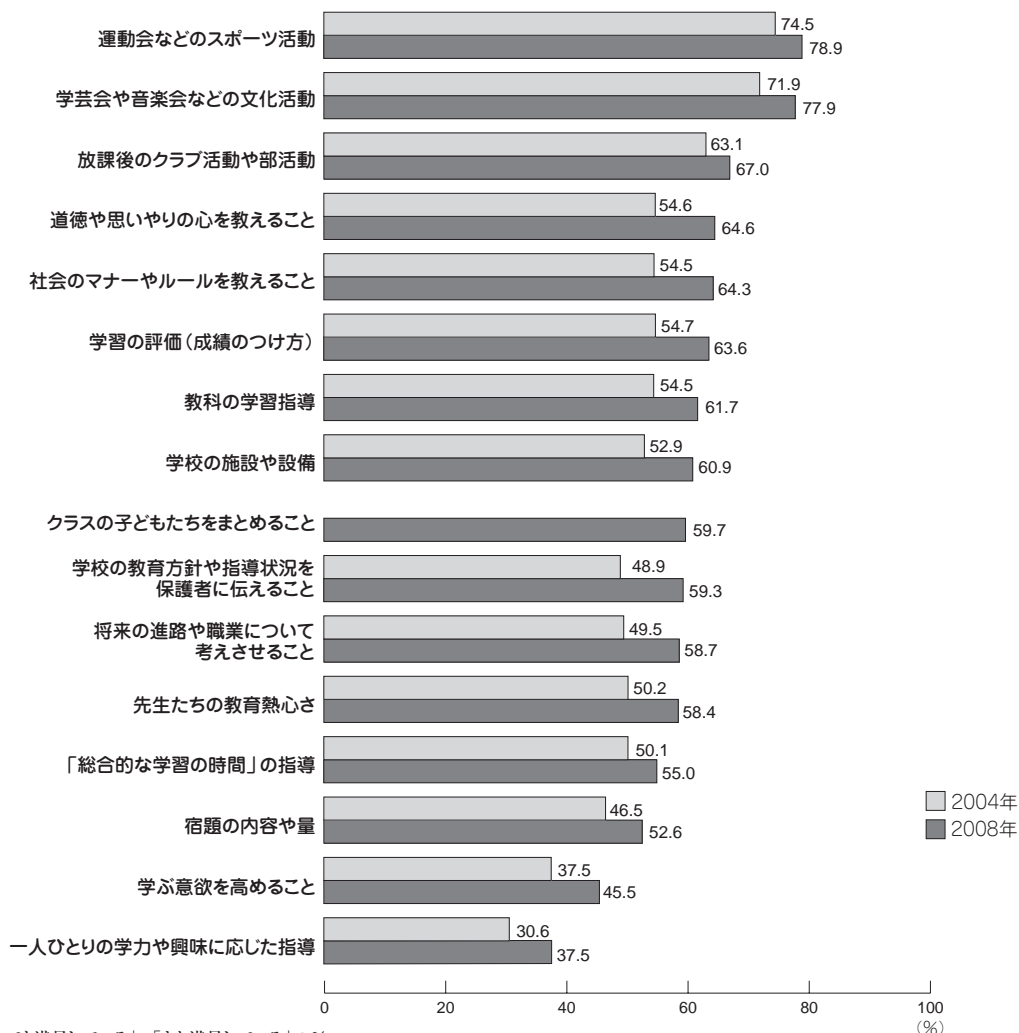
注4) ※は小5生の保護者のみ回答。

### 学校に対する満足度③——指導や取り組みに対する満足度（中学校） ほとんどの項目で「満足」の割合が大きく増えている

2004年調査と比べるとほとんどの項目で、「満足している（とても+まあ）」の割合が5～10ポイント程度増えており、学校が行っている取り組みに満足する保護者が増えているようだ。とくに増加している項目は、「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」（48.9→59.3%）、「道徳や思いやりの心を教えること」（54.6→

64.6%）、「社会のマナーやルールを教えること」（54.5%→64.3%）で、10ポイント前後増加した。そのほか、「将来の進路や職業について考えさせること」（9.2ポイント増）、「学習の評価（成績のつけ方）」（8.9ポイント増）などの項目で、満足度が高まっている。

図 I-5 指導や取り組みに対する満足度（中学生保護者・経年変化）



注1) 「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2) 数値は、継続校のみの値。

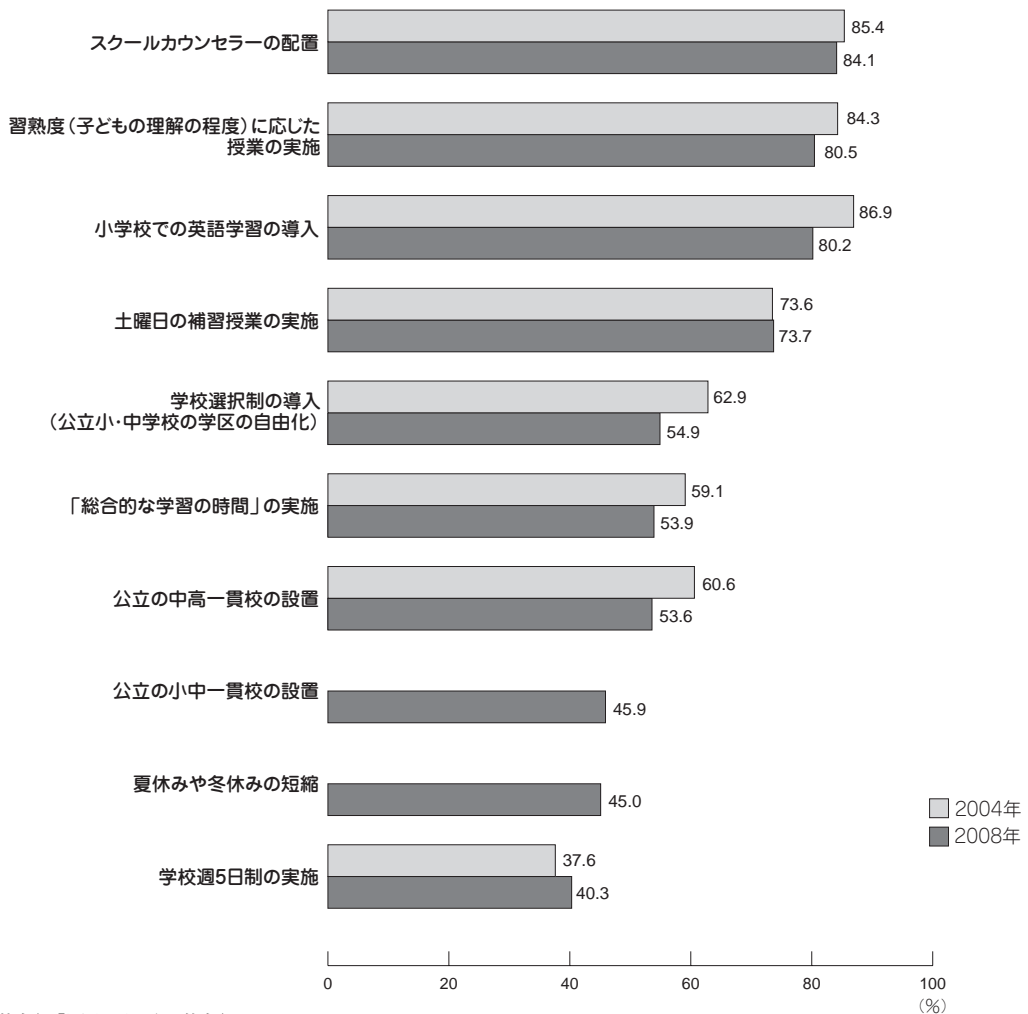
注3) 「クラスの子どもたちをまとめること」は2004年調査ではたずねていない。

教育改革に対する意見①——教育改革への賛否〔1〕  
「小学校英語」「学校選択制」で「賛成」が減少している

全体に、「賛成」（「どちらかといえば」を含む）の比率が減少する項目が多い。なかでも、「学校選択制の導入」「公立の中高一貫校の設置」「小学校での英語学習の導入」「『総合的な学習の時間』の実施」の4項目は、「賛成」が5ポイント以上減少した。とはいえ、これらの項目はいずれも、半数以上が「賛成」している。図では省

略したが、「公立の小中一貫校の設置」「公立の中高一貫校の設置」は「わからない」という回答が2割を超えており、判断できない保護者も多いようだ。「反対」（「どちらかといえば」を含む）が半数を超えたのは、「学校週5日制の実施」（50.6%）だけであった。

図I-6 教育改革への賛否〔1〕（経年変化）



注1) 「賛成」+「どちらかといえば賛成」の%。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「公立の小中一貫校の設置」「夏休みや冬休みの短縮」は2004年調査ではたずねていない。

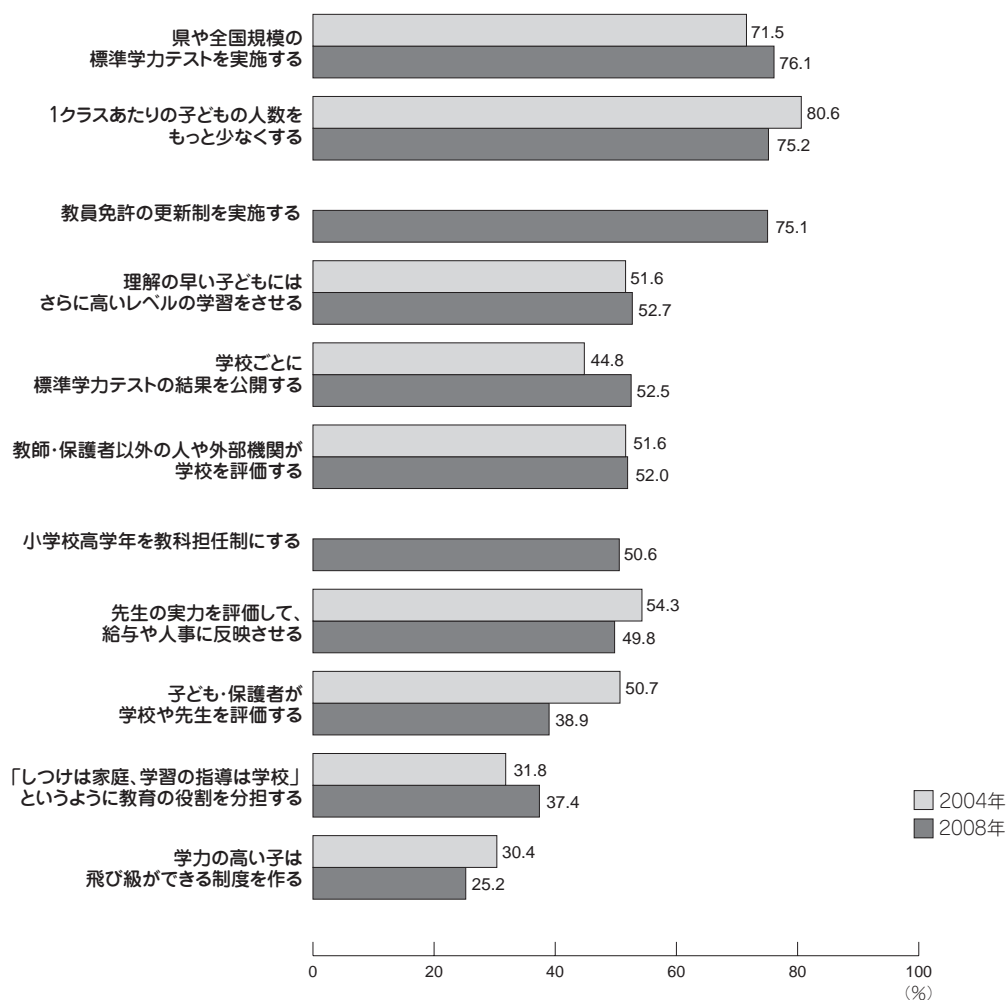
注4) 選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

## 教育改革に対する意見②——教育改革への賛否〔2〕 学力テストの「実施」や「結果公開」に「賛成」する保護者が増えた

「県や全国規模の標準学力テストを実施する」は「賛成」（「どちらかといえば賛成」を含む）が4.6ポイント増えて、4人に3人が賛意を示す結果になった。さらに、「学校ごとに標準学力テストの結果を公開する」も「賛成」が7.7ポイント増えて、過半数に達した。このように、学力テストに関連する項目の「賛成」が増えている一方で、

学校評価に関する項目は減っている。「教師・保護者以外の人や外部機関が学校を評価する」は横ばいだが、「子ども・保護者が学校や先生を評価する」は50.7%から38.9%に減少した。自ら学校を評価することについては、抵抗感が強まっているようだ。

図I-7 教育改革への賛否〔2〕（経年変化）



注1) 「賛成」+「どちらかといえば賛成」の%。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「教員免許の更新制を実施する」「小学校高学年を教科担任制にする」は2004年調査ではたずねていない。

注4) 選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

**学校教育に対する意識——教育についての意見**  
**授業時間は「今よりも増やしたほうがいい」が増加している**

教育についての意見として、授業時間の増減と教育の不平等の問題をたずねた。授業時間の増減については、「今よりも増やしたほうがいい」が44.2%から5.2ポイント増加して約半数となった。これに対応して、「今と同じくらいがいい」「今よりも減らしたほうがいい」は減少している。教育の不平等に関しては、所得により教

育格差が生じることに対する意見をたずねたが、「問題だ」という認識が52.7%でもっとも多く、2004年調査からわずかに増えた。こうした認識は家庭の経済状況によって異なっており、「問題だ」の割合は、経済的に「ゆとりがある」保護者が4割であるのに対して、「ゆとりがない」と6割になる。

図 I-8 教科の授業時間(経年変化)

教科の授業時間について、あなたはどのように思いますか。

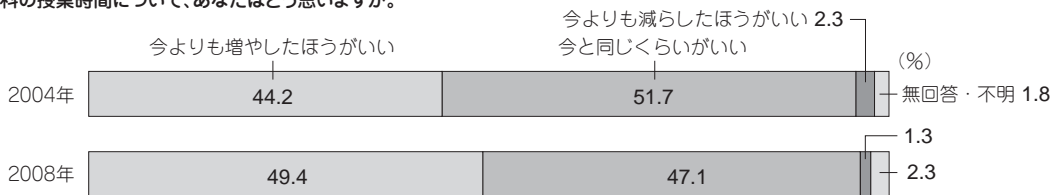


図 I-9 教育の不平等(全体/経済状況別・経年変化)

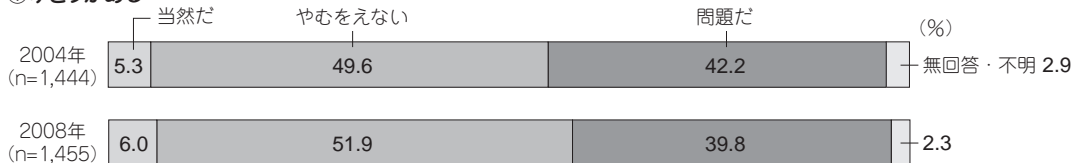
所得の多い家庭の子どものほうが、よりよい教育を受けられる傾向があるとされます。こうした傾向について、あなたはどのように思いますか。

**【全体】**

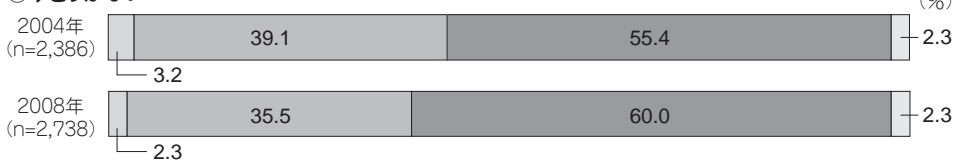


**【経済状況別】**

① **ゆとりがある**



② **ゆとりがない**



注1) 数値は、継続校のみの値。

注2) 「経済的にゆとりがある」は、「あなたの生活には経済的にどの程度ゆとりがありますか」という質問に「ゆとりがある」「多少はゆとりがある」と回答した保護者。「経済的にゆとりがない」は、「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」と回答した保護者。



## 教育の状況に対する意識

### 学校や先生に対する信頼感が高まり、不満が弱まっている

教育をめぐる状況の変化について、どれくらい感じているかをたずねた。①子どもの変化と②家庭の変化については、2004年調査と2008年調査で大きな認識の違いはみられなかった。しかし、③地域の変化については、7割を超える保護者が「地域が安全でなくなっている」「地域の大人が子どもにかかわらなくなっている」と「感

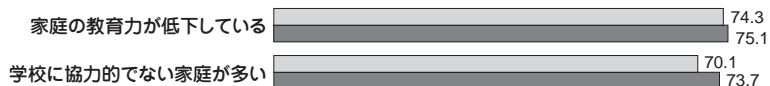
じる（とても＋やや）」ものの、その割合は減少している。さらに、④学校・教員の変化については、学校や教員に対する不信・不満が、この4年間で改善された。「学校の先生は信頼できる」と「感じる」割合が増加し、また、「学校は一人ひとりに応じた教育を行っていない」「先生の教える力が低下している」は減少している。

図I-10 教育状況に対する認識（経年変化）

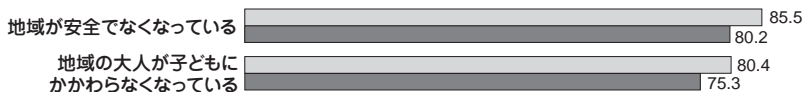
#### ①子どもの変化



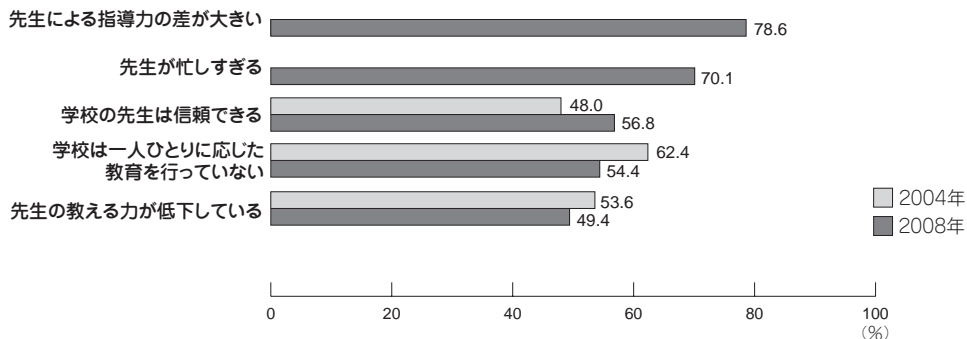
#### ②家庭の変化



#### ③地域の変化



#### ④学校・教員の変化



注1) 「とても感じる」+「やや感じる」の%。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「先生による指導力の差が大きい」「先生が忙しすぎる」は2004年調査ではたずねていない。

注4) 選択肢は、「とても感じる」「やや感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」に「わからない」を加えた5つから選択してもらっている。

## 第Ⅱ節 学校外教育に対する意識

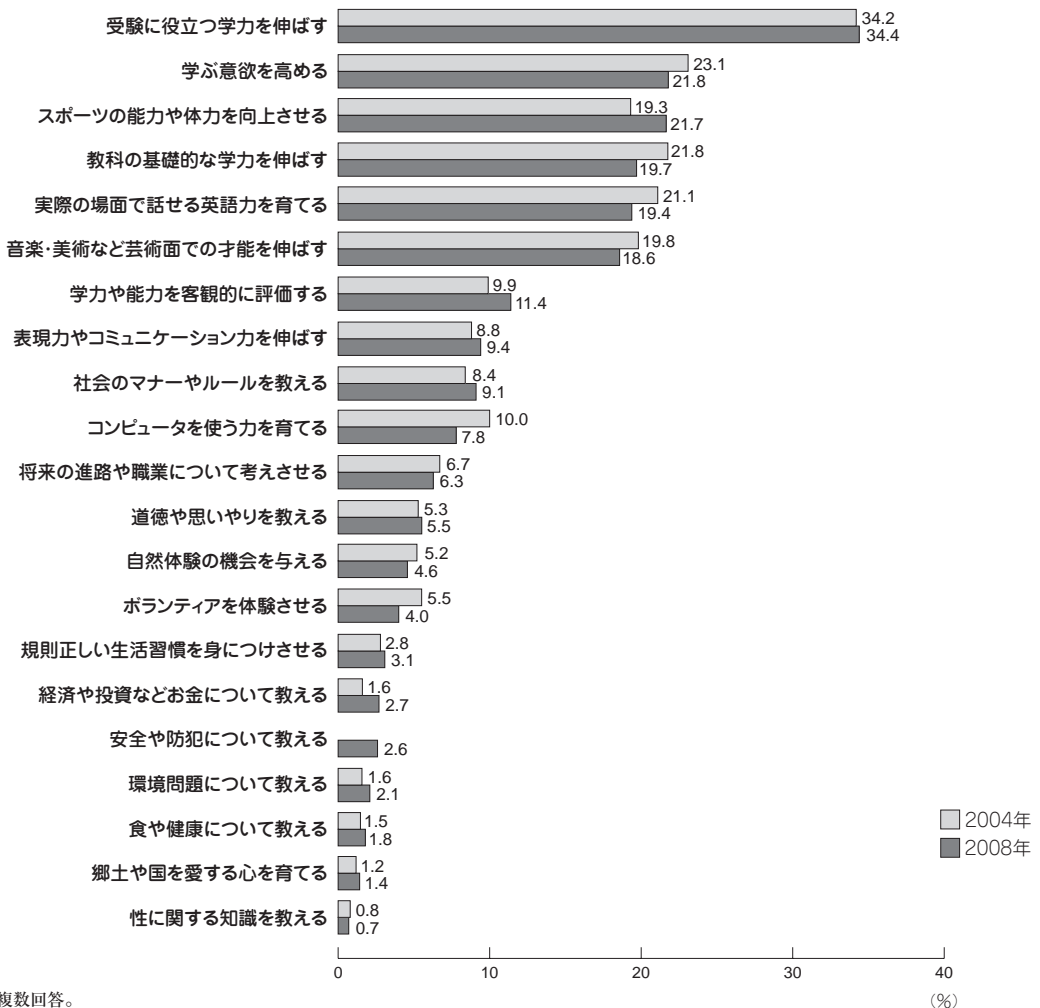
### 学校外に期待する教育

「受験に役立つ学力を伸ばす」ことを、もっとも期待している

学校外教育に期待することとしてあてはまるものを、21項目のなかから選んでもらった。もっとも選択される比率が高かったのは、「受験に役立つ学力を伸ばす」で34.4%だった。これに、「学ぶ意欲を高める」「スポーツの能力や体力を向上させる」「教科の基礎的な学力を伸ばす」「実際の場面で話せる英語力を育てる」「音楽・美術

など芸術面での才能を伸ばす」の5項目が2割前後で続く。これらはいずれも、子どもたちの習い事としても多い内容である。2004年調査と2008年調査の差はいずれの項目も3ポイント以内にとどまっており、4年間で大きな変化はみられなかった。

図Ⅱ-1 学校外に期待する教育（経年変化）



注1) 複数回答。

注2) 数値は、継続校のみの値。

注3) 「安全や防犯について教える」は2004年調査ではたずねていない。

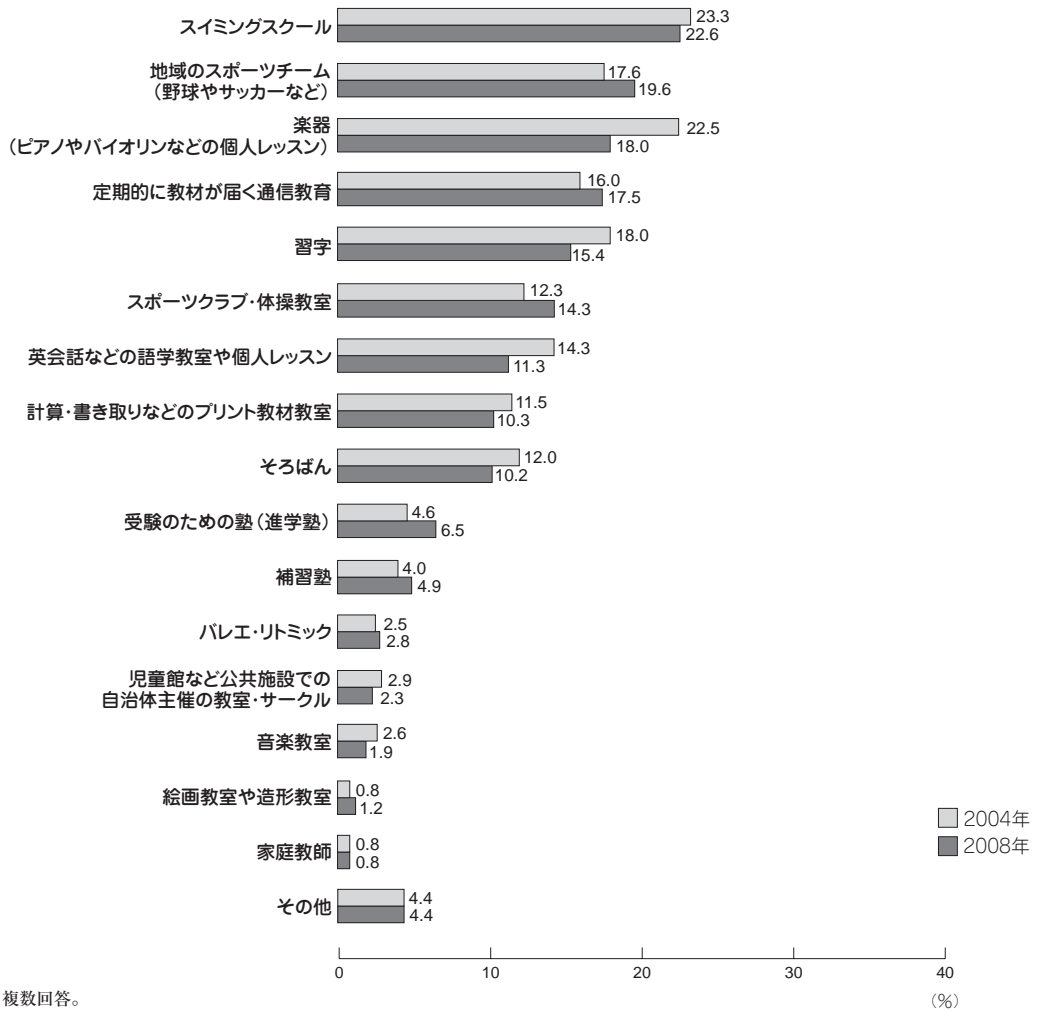
## 小学生の習い事

### スポーツ、芸術、学習に関する習い事をバランスよくしている

習い事について小学生の保護者にたずねたところ、「スイミングスクール」がもっとも多く、「地域のスポーツチーム」「スポーツクラブ・体操教室」などの人気も高かった。中学生に比べて、スポーツに関する習い事が多いのが、小学生の特徴である。さらに、「楽器」「音楽教室」の合計が2割、「通信教育」「プリント教材教室」

「受験のための塾」「補習塾」の合計が4割であり、芸術や学習に関する習い事もさかんだ。経年の推移に注目すると、「地域のスポーツチーム」などのスポーツに関する習い事がわずかに増加する一方で、「楽器」「英会話などの語学教室や個人レッスン」などが減少している。

図Ⅱ-2 習い事(小学生保護者・経年変化)



注1) 複数回答。

注2) 数値は、継続校のみの値。

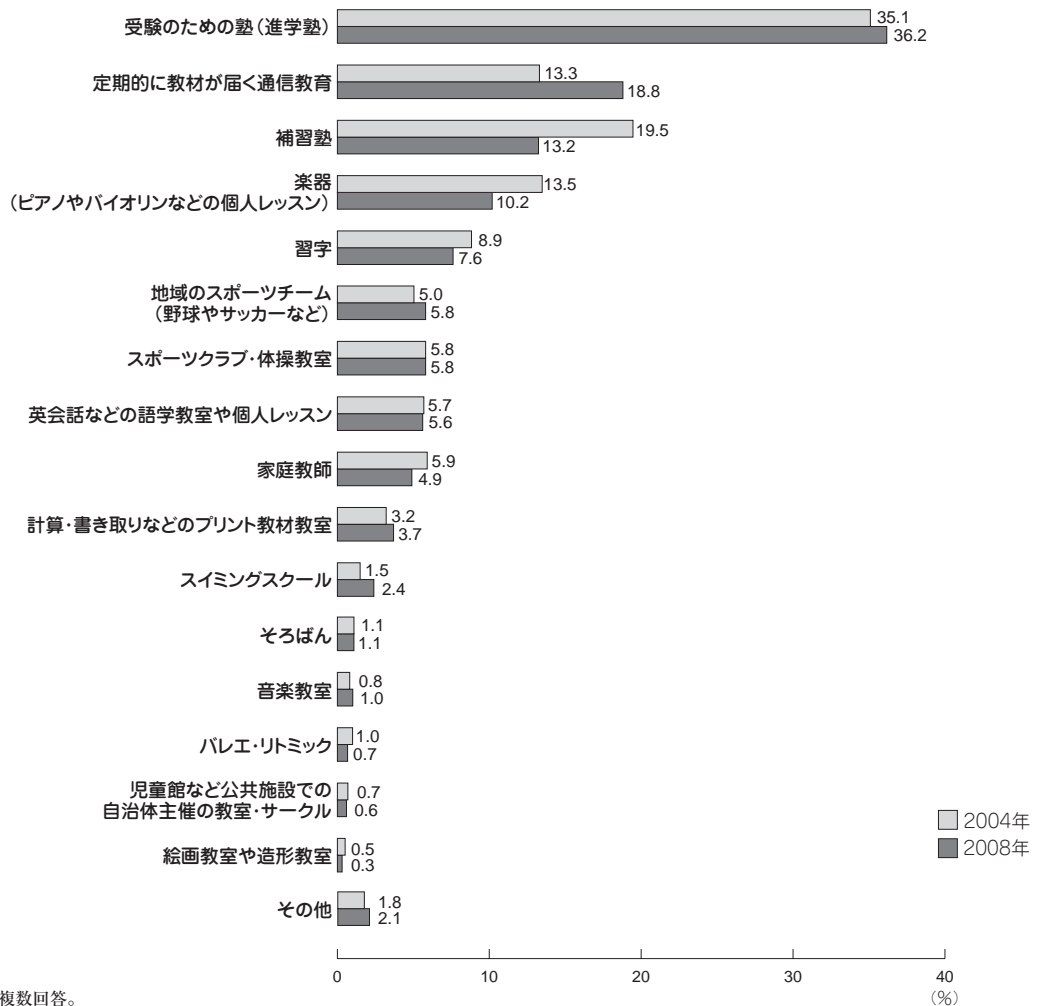
## 中学生の習い事

### 習い事の上位は、学習に関するもので占められている

中学生の習い事は、学習に関するものが上位を占めている。「受験のための塾」が36.2%と最も高く、「通信教育」が18.8%、「補習塾」が13.2%で続く。「楽器」がかろうじて1割を超えるが、それ以外の習い事はいずれも1割を下回る。学習以外の習い事が少ないのは、中学校に

部活動があるためだろう。2004年調査と2008年調査の比較では、「定期的に教材が届く通信教育」が5.5ポイント増加したのに対して、「補習塾」が6.3ポイント減少した。それ以外の項目では、「楽器」がわずかに減少しているだけで、大きな変化はみられなかった。

図Ⅱ-3 習い事(中学生保護者・経年変化)



注1) 複数回答。  
注2) 数値は、継続校のみの値。

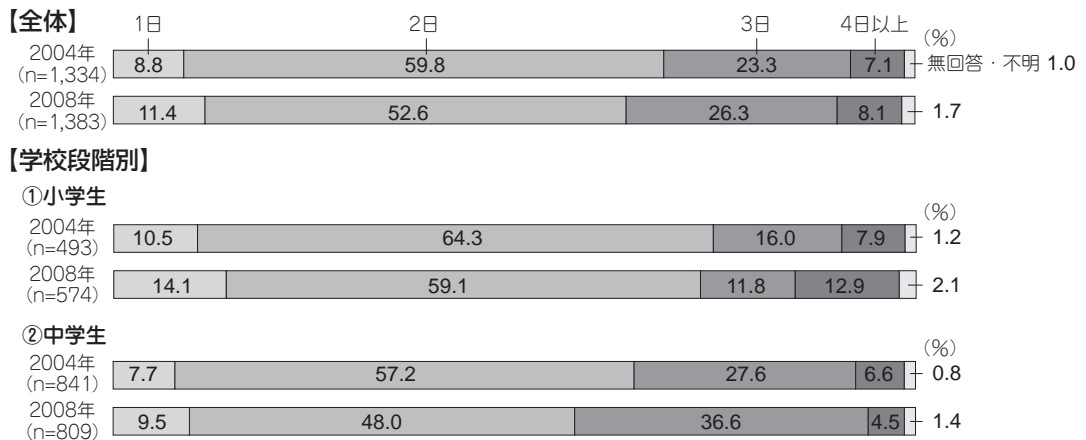
## 塾での学習

### 塾に通う日数が増えている

子どもを塾に通わせている保護者に対して、子どもが週に何日くらい通っているか、1回あたりにどれくらい勉強しているかをたずねた。通塾日数は、「2日」という回答が通塾者のうち52.6%と半数を超えている。しかし、頻度は増える傾向にあり、「3日」以上（「3日」+「4日以上」）の回答が30.4%から34.4%になった。通塾1回あ

たりの時間は、大きな経年変化はみられなかった。全体では「2時間未満」と「2～3時間未満」がともに3割台だが、小学生と中学生で大きく異なっており、小学生では「2時間未満」が、中学生では「2～3時間未満」と回答した割合がもっとも高い。

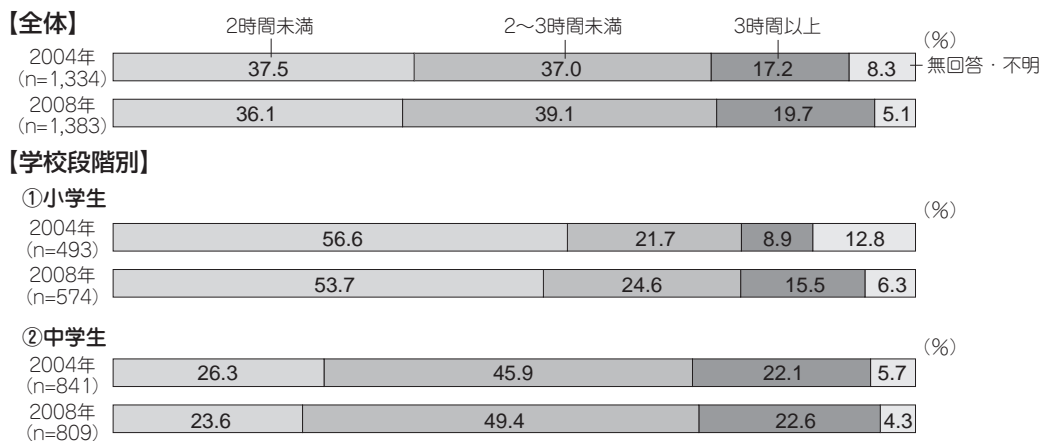
図Ⅱ-4 1週間の通塾日数(全体/学校段階別・経年変化)



注1) 数値は、継続校のみの値。

注2) 習い事や塾をしているかどうかの質問で、「計算・書き取りなどのプリント教材教室」「受験のための塾」「補習塾」のいずれか1つ以上に○をつけた保護者のみ回答。

図Ⅱ-5 通塾1回あたりの学習時間(全体/学校段階別・経年変化)



注1) 数値は、継続校のみの値。

注2) 習い事や塾をしているかどうかの質問で、「計算・書き取りなどのプリント教材教室」「受験のための塾」「補習塾」のいずれか1つ以上に○をつけた保護者のみ回答。

## 学校外の教育費

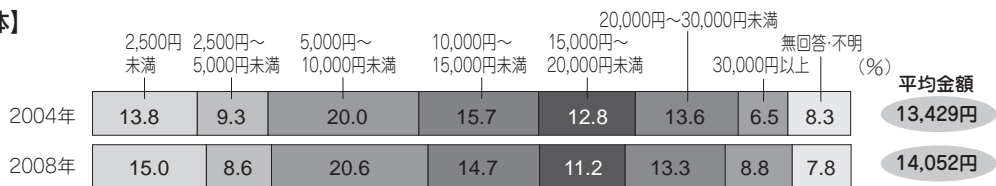
### 高額な教育費を支出する家庭が増加している

子ども1人あたりの1か月にかかる教育費をたずねたところ、「20,000円」以上の回答が20.1%から22.1%に増加しており、わずかではあるが高額な支出をする家庭が多くなっていることがわかった。平均金額も、この4年間で600円ほど増加した。平均金額の推移を学校段階別にみる

と、小学生は約700円、中学生では約600円増えている。次に、保護者の学歴による教育費負担の違いをみると、「夫婦ともに大卒」では1,300円以上増加しているのに対して、「夫婦ともに非大卒」では400円を少し上回る程度の増加であった。この4年間で、両者の差は拡大している。

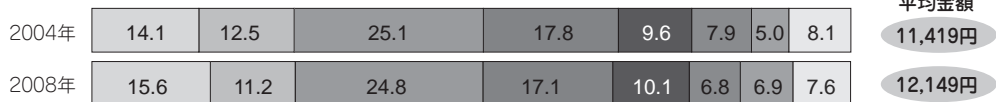
図Ⅱ-6 教育費(全体/学校段階別/学歴別・経年変化)

#### 【全体】

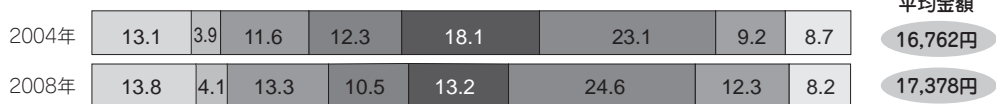


#### 【学校段階別】

##### ①小学生

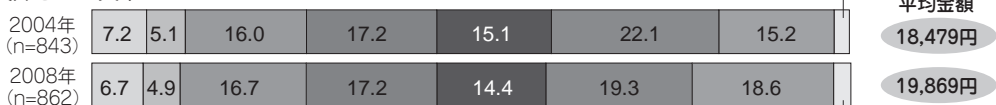


##### ②中学生

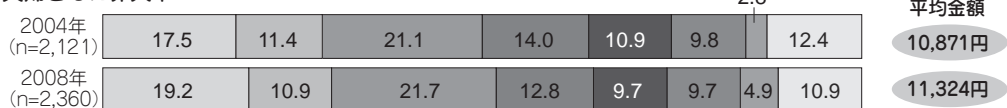


#### 【保護者の学歴別】

##### ①夫婦ともに大卒



##### ②夫婦ともに非大卒



注1) 数値は、継続校のみの値。

注2) アンケートを持ち帰った子ども1人・1か月あたりの学校外の教育費(学校での費用を除く)について回答してもらっている。

注3) 「30,000円以上」は、「30,000円～40,000円未満」「40,000円～50,000円未満」「50,000円～60,000円未満」「60,000円以上」の合計を示す。

注4) 平均金額は、無回答・不明を除外し、「2,500円未満」を1,250円、「2,500円～5,000円未満」を3,750円……「50,000円～60,000円未満」を55,000円、「60,000円以上」を65,000円というように換算して、平均値を算出した。

注5) 「夫婦ともに大卒」は、自分および配偶者が「大学・短期大学を卒業しているか」という質問のいずれにも○をしているケース、「夫婦ともに非大卒」は、いずれにも○をしていないケースである。自分もしくは配偶者の一方に○をしているケースは、図から省略した。

## 教育費の負担感

### 教育費の増加にともない、負担感も高まっている

教育費についての質問に続いて、その負担感をたずねた。「負担を感じる（かなり+やや+少し）」の比率は、2004年調査では64.1%だったが、2008年調査では66.9%と2.8ポイント増加した。学校段階別に比べると、小学生の保護者に比べて中学生の保護者のほうが負担を感じているが、「負担を感じる」比率ののびはいずれも3

ポイント以内で差はない。さらに、それを学歴別にみると、「夫婦ともに大卒」ではほぼ横ばいなのに対し、「夫婦ともに非大卒」では5.2ポイントも上昇している。実際の負担費用が少ない「非大卒」の夫婦のほうが、以前よりも負担感を増していることがわかる。

図Ⅱ-7 教育費の負担感(全体/学校段階別/学歴別・経年変化)

#### 【全体】

	かなり負担を感じる	やや負担を感じる	少し負担を感じる	あまり負担を感じない	まったく負担を感じない	(%) 無回答・不明
2004年	14.6	22.9	26.6	21.0	7.1	7.7
2008年	15.8	24.4	26.7	19.5	7.1	6.7

#### 【学校段階別】

##### ①小学生

	かなり負担を感じる	やや負担を感じる	少し負担を感じる	あまり負担を感じない	まったく負担を感じない	(%)
2004年	11.5	21.9	27.5	23.8	7.6	7.5
2008年	12.0	23.8	28.1	21.7	7.4	6.9

##### ②中学生

	かなり負担を感じる	やや負担を感じる	少し負担を感じる	あまり負担を感じない	まったく負担を感じない	(%)
2004年	19.7	24.6	25.0	16.4	6.3	8.0
2008年	22.3	25.3	24.2	15.5	6.6	6.2

#### 【保護者の学歴別】

##### ①夫婦ともに大卒

	かなり負担を感じる	やや負担を感じる	少し負担を感じる	あまり負担を感じない	まったく負担を感じない	(%)
2004年 (n=843)	17.8	25.5	27.3	21.5	5.9	2.0
2008年 (n=862)	15.7	26.3	29.0	21.1	6.4	1.5

##### ②夫婦ともに非大卒

	かなり負担を感じる	やや負担を感じる	少し負担を感じる	あまり負担を感じない	まったく負担を感じない	(%)
2004年 (n=2,121)	12.8	21.3	25.8	21.3	8.1	10.7
2008年 (n=2,360)	16.0	23.6	25.5	18.8	6.9	9.1

注1) 数値は、継続校のみの値。

注2) 「夫婦ともに大卒」は、自分および配偶者が「大学・短期大学を卒業しているか」という質問のいずれにも○をしているケース、「夫婦ともに非大卒」は、いずれにも○をしていないケースである。自分もしくは配偶者の一方に○をしているケースは、図から省略した。